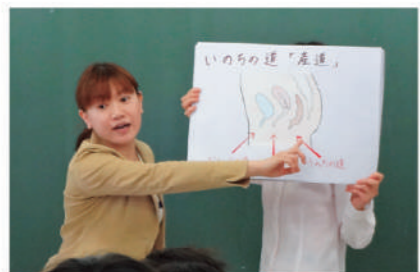


県立病院の助産師たち ～安心して出産するための支援～

CASE 助産師の役割について

県立病院の助産師は、医師が立ち会う分娩だけでなく、助産師の判断で分娩に対応する院内助産や妊婦の健康診査や保健指導を行う助産師外来のほか、出前講座として地域へ出向き、将来を担う子どもたちに対し思春期の命の大切さなどに関する教育活動を行うなど、その役割は分娩業務のみならず多岐にわたります。

これからずっと命が繋がっていく中で、女性の一生に寄り添った助産ケアやサポートを提供し、やりがいを持って取り組めることが魅力のひとつとなっています。



磐井病院

「BFH認定病院になりました」



看護師兼助産師
今野 貴子

私は妊産褥婦や新生児に良質なケアの提供と自分のスキル向上のためアドバンス助産師認証を受け働いています。

職場での一人の先輩助産師との出会いが、皆で赤ちゃんにやさしい病院(BFH)を目指すきっかけになりました。母乳育児に関する研修に参加し、「母乳育児成功のための10カ条」に、病院一丸となって取り組み、BFH認定病院となることができました。母乳育児を希望するお母さんは多く、こちらのちょっとした支援で自信を持って母乳育児を楽しんでいる姿は私の原動力となっています。

求めて下さる方がいる限り、自分のやるべき事を続けていきたい、人に喜んでもらえたら、それが何より自分の喜びとなる。その循環を続けられたら幸せです。喜びを多くの人たちと共有し、みなさんに選ばれる病院を目指していきたいと思っています。

釜石病院

「内部養成で助産師になりました」



看護師兼助産師
藤井 愛

私は、学生時代、助産師の仕事に興味を抱きましたが、看護師の仕事にも興味があったことや、助産師として自分が妊産褥婦、新生児を支えていくことができるのだろうかという不安もあり、じっくり考えたいと思い、看護師として県立病院に就職しました。

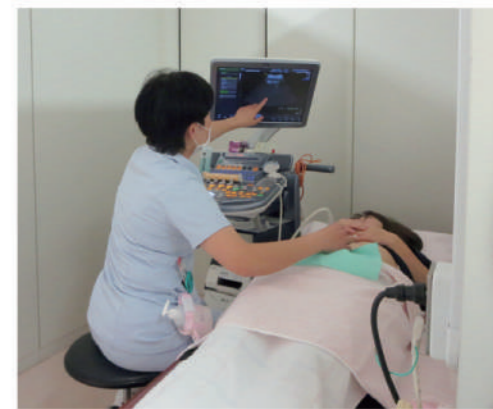
看護師の仕事はやりがいがあり、日々充実していましたが看護師長より助産師派遣研修の制度ができたことを伺い、地元である沿岸の助産師が不足しているということや母児、家族を支えていきたいと思い、進学を決意しました。資格取得のため、指定されている学校を受験しました。勤務しながらの受験勉強というのは大変でしたが、同期の看護師や周囲のスタッフなどの応援が励みとなりました。看護師の経験も命の尊さやチーム医療の大切さを学ぶ必要な経験だったと思います。

今は院内助産のある釜石病院で助産師として働いています。わからないことばかりですが、スタッフの方々に支えていただきながら、やりがいを感じ、日々過ごす事ができています。今後もスタッフの方々と共に、変化していく周産期医療を支える一員として頑張っていきたいと思っています。

CASE 助産師外来について

助産師外来では、助産師が妊産褥婦の健康診査や保健指導を行っています。妊婦健診は、ゆったりした雰囲気の中で不安な事などを伺いながら、妊婦が主体となり満足した出産が出来るようサポートしています。お腹の中の赤ちゃんの成長をお母さん方と一緒に喜び分かち合う時間は、助産師としてのやりがいを感ずります。

産後健診では、退院後の育児に関する不安の軽減や、母乳育児が継続できるようケアを行っており、お母さん方の自信に繋がり好評を得ています。



助産師外来を行っている県立病院

- 大船渡病院
- 釜石病院
- 宮古病院
- 磐井病院
- 中部病院
- 二戸病院



院内助産を行っている県立病院

- 釜石病院
- 宮古病院

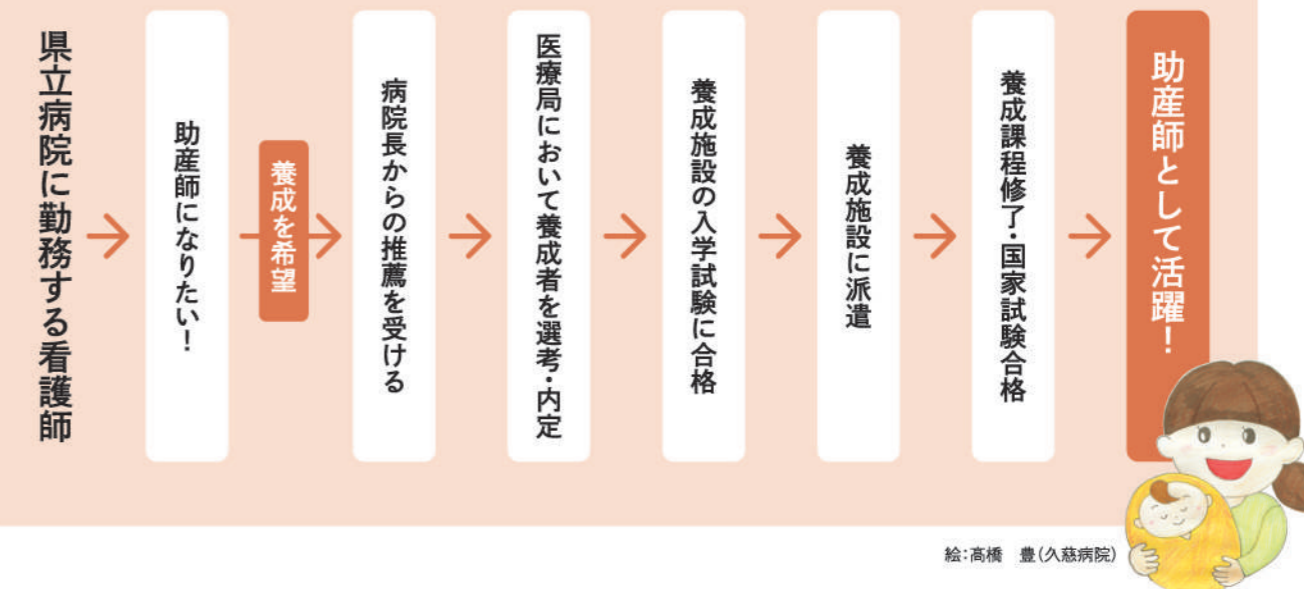


CASE 助産師の内部養成について

県立病院で働く看護師のなかで、助産師として働く意欲のある職員を対象に内部養成を実施しています。助産師免許の取得に要する費用(養成施設の学費等)や在学中の給与についてはすべて医療局において支援します。

※助産師免許取得後の配属先は県北・沿岸の病院になります。

● 助産師の内部養成の流れ ●



絵:高橋 豊(久慈病院)

